

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	城陽市役所 新庁舎	階数	地上4F
建設地	京都府城陽市寺田東ノ口16番地、1	構造	S造
用途地域	準住居地域、第1種住居地域、準防	平均居住人員	25,000 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年7月15日
敷地面積	5,766 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社内藤建築事務所
建築面積	1,042 m <sup>2</sup>	確認日	2016年7月19日
延床面積	3,669 m <sup>2</sup>	確認者	乾康夫



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	92%
③ 上記+②以外の	91%
④ 上記+	91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.1
空気質環境	4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	2.9
耐用性	3.7
対応性	3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

建物外皮の	3.0
自然エネルギー	4.0
設備システム	4.1
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

水資源	3.0
非再生材料の	3.5
汚染物質	4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

地球温暖化	2.8
地域環境	2.3
周辺環境	2.7

3 設計上の配慮事項	
総合	その他
1階に福祉課、高齢介護課、子育て支援課を集約させ来庁者の利便性を向上させる。 各階に車いす対応トイレの設置、入口付近にエレベーター・階段の設置、段差解消など誰にでも優しく親しまれる庁舎とする。 比較的来庁者の多い1階と2階は幅広い中央廊下とし、わかりやすい空間構成とする。	設備配管を外部に設置し更新が容易にできるよう計画
<b>Q1 室内環境</b> 全ての建材について☆☆☆を使用 屋光センサーによる照明制御の実施	<b>Q2 サービス性能</b> 保有水平耐力比1.5以上 非常用発電機の設置 受変電設備は1階電気室内に設置、地階への設置を行わない
<b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電を設置	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器を設置
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地の20%以上の緑地率を確保
	<b>LR3 敷地外環境</b> 日影規制を厳守

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される